

ひと・夢・まち 町長コラム

日ごろから慌てない準備をしていますか？（令和3年12月号）

西郷どんの教え その33

いつも何が正しく、何が正しくないかを考えていない人は、何かことが起きるとどうしていいかわからず慌ててしまう。例えば、火事があった場合、消火訓練や避難訓練をしている人は、てきぱきと行動できるが、訓練をしていない人は、ただ慌てるだけで何もできない。西郷さんはかつて、先年出陣の日に兵士に向かい、「我が軍の備えが整っているかいがないかを、ただ味方の目を持ってだけ見ず、敵の心になって一つ働いて見るべきである。それが敵に備える兵備の第一である。」と、申し聞かせたそうです。

東日本大震災から10年、令和2年7月の豪雨水害の記憶も忘れることができない今、町における治水整備は、国・県とも連携し遂行していかなければならない。ただ、整備とともに必要なのが、「自分の命を守る」という強い意志である。

「いつも正しくとは、心の準備ができているかどうかだ」

これから乾燥する季節になるが、新型コロナウイルスの新たな変異株も発生している中、感染症に対しては、気のゆるみなく準備・対策を行うことが、with コロナ、after コロナを生きていく上で必要になってくる。